

2022年12月期第1四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）QA サマリー

Q1：売上・利益の着地は社内計画と比べてどうだったか？

A1：売上は、計画を下回った。年初の計画時点で、世界的サプライチェーンの問題によるリードタイム長期化の影響を織り込み、第1四半期の売上は低めにみていたが、実際に第1四半期に入って以降、中国でのコロナ感染拡大による移動制限強化などの新たな要因が加わった。受注は、計画を上回った。これは業績の上振れ要因となる。

Q2 第2四半期以降、LED 向けの ALD 受注の見通しはどうか？

A2：ALD のミニ LED は昨年、大きく受注を伸ばした。顧客の最終製品の販売時期を考えると、今年の第3四半期～第4四半期に発注を受ける可能性がある。

Q3：部材コストが上昇傾向にある中、受注の採算性はどうか？

A3：年初の計画の中にも、原材料価格上昇を織り込んでいる。
新型装置は粗利率が高く、35%以上を目標に設定している。
また、お客様に価格での協力を依頼している。それに加えて、各製造拠点で設計最適化を含めよりトータルなコスト削減を実施している。営業利益率については、年初における業績見通しの説明の通り、今期は国内研究開発施設取得や中国での ALD 装置新会社の本格稼働に伴い、例年より支出・費用が増えるため、20.5%の年度見通しを立てている。

Q4：第1四半期のカメラモジュール向けは、最終製品が北米スマートフォンメーカー関連の、中国や台湾の光学レンズ部品メーカーを経由した間接的取引受注が多かったとのことですが、そうした中国・台湾の部品メーカー向けのシェアがアップしていると考えていいのか？

A4：はい、その通りです。当社は、従来からの中国メーカーのみならず、当社の ALD 装置等が評価され、台湾メーカーとの取引も強めている。

Q5：御社の ALD は、Micro-LED の成膜にも対応できるのか？

A5：当社の ALD は、ミニ LED や Micro-LED の成膜可能。今後、タブレット PC のみならず、大型テレビ用バックライト向けや AR/VR 等でもニーズが出てくることを期待している。

Q6：半導体光学融合はどれくらい広がっているのか？またどのようなアプリケーションが対象となってくるのか？

A6：アプリケーションとしては、スマートフォン、車載、AR／VR等であり、それらに
使われる、センサー、レーザー、ミニLED等で広がっている。
昨年の受注の10%程度が、半導体光学融合関係である。

Q7：第2四半期以降の上海ロックダウンの影響は？

A7：4月1日に始まった上海市のロックダウンにより一時的に停止していた生産活動を5
月第1週目に再開した。業績への影響を極小化するように操業度を上げ対応中です。
ただし、上海市内のロックダウンが必要な地域については、まだ封鎖が行われてお
り、装置の出荷やお客様サポートにつきまして活動に尚制限があります。また、今後
の現地感染状況によっては、再び生産活動に影響が出る可能性もあります。

以上